

# リベラルアーツとエンダウメント

## AI 時代のリベラルアーツ・カレッジ

長野 公則

### 1. 背景と目的

リベラルアーツ・カレッジの存在は、アメリカの高等教育の特色の一つである。学生数は約 2,000 名前後で学生教員比率は 8 対 1 前後である。学士課程教育に重点を置き、大学院は小規模である。教育内容の面では、キャンパス空間の重視、教員との密接な交流、学問領域を超えた知の探究等の特色を持つ。こうした教育面で伝統的特色を持つアメリカのリベラルアーツ・カレッジは、21 世紀に入り大学間の激しい生き残り競争に直面している。

本研究の目的は、21 世紀の最初の約 25 年間を経過した現在における、アメリカのトップランクのリベラルアーツ・カレッジの財務面、教育面の現状の一端を明らかにすることである。アメリカのリベラルアーツ・カレッジの中でもトップランクの伝統校に焦点を当て、収入面の柱の一つであるエンダウメント（基本財産、以下エンダウメント）の成長と収入面での構成比を明らかにする。これらの財政面で強みのある伝統校において、生成 AI 時代の事例校の新しい取り組みは如何なる傾向に進みつつあるのか。本研究では、この点も併せて明らかにする。

### 2. 先行研究

アメリカのリベラルアーツ・カレッジの特色を教育理念と経済類型の観点から整理し、生き残りの可能性にも言及した先行研究として Breneman (1994) がある。教育の観点から見れば、リベラルアーツ・カレッジは、学士号を授与し、寄宿制を持ち、本来 18 歳から 24 歳のフルタイム学生が在学し、かつ専攻科目の範囲を芸術、人文科学、言語、社会科学、自然科学における大体 20 から 24 の分野に限定する。学生数は大半が 800 から 1,800 のあいだである。また経済類型の観点から Breneman は、1980 年代のリベラルアーツ・カレッジをエンダウメントの額、純授業料、志願者の合格率という 3 要素で 10 のグループにランキングし、上位 2 割のカレッジは繁栄しているようであり、一方で下位 2 割の中のいくらかが危機状態にあると展望している。

絹川 (2005) は、リベラルアーツ教育と学士学位プログラムの面から論じている。長野 (2019) は、アメリカの大学の豊かさと強さのメカニズムを探究する中で、トップランクのリベラルアーツ・カレッジは財務的優位性と伝統的少人数教育の特色を 21 世紀にも維持発展させていることを明らかにしている。

本研究では財務面の特色に加え、生成 AI 時代の取組についても論じる。

### 3. 研究方法

21 世紀初頭 (2001 年) のエンダウメントの時価総額が 8 億ドル以上の伝統校 5 大学を事例としてとりあげる (表 1)。各事例カレッジの年次報告書、財務資料、ウェブページ等の分析を行う。

表 1 事例カレッジの概要

	大学名	学生数 (2018)	設立年	所在地
1	ウィリアムズ・カレッジ (Williams College)	2,092	1793	Williams Town, MA
2	アマーست・カレッジ (Amherst College)	1,856	1821	Amherst, MA
3	ポモナ・カレッジ (Pomona College)	1,564	1887	Claremont, CA
4	ウエルズリー・カレッジ (Wellesley College)	2,383	1870	Wellesley, MA
5	スミス・カレッジ (Smith College)	2,891	1871	Northampton, MA

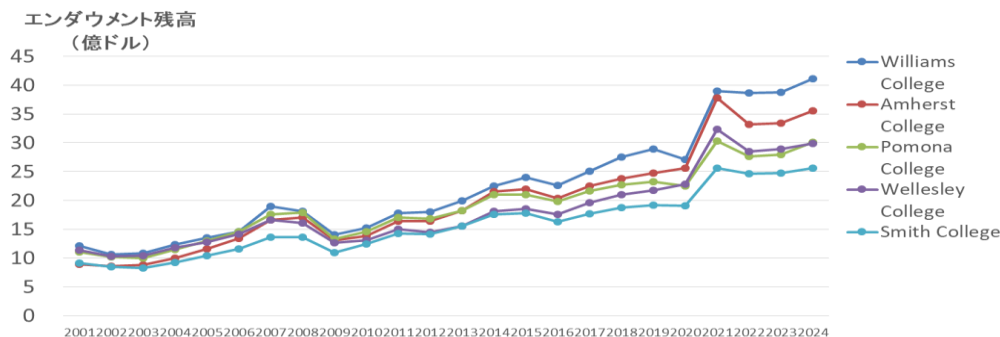
出典：各事例カレッジの年次報告書、NACUBO Endowment Study から筆者作成

### 4. リベラルアーツ・カレッジの財務（エンダウメントの成長と収入構造の現状）

2001 年から 2024 年までの 24 年間に、事例 5 カレッジのエンダウメントは順調に拡大した。過去から受け継いだエンダウメントを市場で運用し、新しい寄付金収入等で増やすことによって、いずれも 2008 年のリーマン

ショック不況と2020年に始まるパンデミックを乗り越えて過去最高の水準に達している（図1）。

図1 エンダウメントの成長(2001年から2024年)



出典：NACUBO Endowment Study 2001～2024、各大学財務報告書から筆者作成

こうしたエンダウメントの過去からの蓄積の更なる成長の結果として、毎年予算における収入構造もエンダウメントからの収入が重要度を増しつつある。2024年の事例5カレッジの収入構造の特色は以下の通りである、エンダウメントからの配分収入が総収入に占める比率が、事例5大学のすべてで40%以上に達し、学生納付金を上回る最も主たる収入源となった。ウィリアムズ(55%)、アマースト(54%)、ポモナ(48%)、ウエルズリー(43%)、スミス(43%)である。

## 5. 生成AI時代のリベラルアーツ・カレッジの新しい取り組み

これらの財政面で強みのある伝統校において、生成AI時代の事例校の新しい取り組みは如何なる傾向に進みつつあるのか。

ウィリアムズの情報科学オフィスは、「Artificial Intelligence in the classroom and at Williams」で生成AIについて次のように述べている。「2022年11月にOpen AIが『Chat GPT』という生成AIのツールを発表した。同様の製品がMicrosoft Office, Google Docs等でも開発された。ウィリアムズの教授陣もこれを利用することが期待されている。学生は効率的に適切に倫理的に活用する方法を学ばなければならない。教室や宿題でAIを活用することは、学生に知的探求のフィールドでAIを活用する機会を提供する。同時にアクセスの平等、結果の信憑性、内容のプライバシーといった問題も提起する」。

アマーストでは、具体的な組織的対応が見られる。2024年の春に学内AIチームが「Academic Department Listening Sessions」を立ち上げ、AI時代にふさわしい教授陣のニーズの調査に着手。人文、社会科学、STEM専攻の各セクションを含む学内横断的なパイロット的試みである。得られた知見やニーズは、Provost主催の「AIと教育を特別テーマとした夏季研修会」等で報告される。2025年春、「AI Related Consultation Sessions」が設けられ、学内のすべての部局のAI関連の相談に応じる体制を敷く。

ポモナでも、Career Development OfficeがAI開発初心者学生向けに「Hands-On AI: Building LLM Powered Apps」というセッションを開設。検索エンジンの基礎等の生成AIに関連するスキルの向上の機会の提供を開始している。また同オフィスは、「How to Research and Write Using AI Tools」というセッションで、生成AIを活用する際に考慮すべき諸点を学ぶ機会の提供を始めている。

ウエルズリーは、セブン・シスターズと呼ばれたアメリカ東部の名門女子大学である。卒業女子学生が、科学分野の博士号を取得する比率が、全米のリベラルアーツ・カレッジの中で最高である。近年、STEM分野を専攻する学生が倍増している。コンピューター・サイエンスのメジャーの中に、Artificial Intelligenceという専攻がある。ロボット工学やコンピューター科学を学ぶ中で、世の中のAIを巡る倫理的問題についても学ぶ。

スミスも、ウエルズリーと同じくセブン・シスターズと呼ばれた名門女子大学。スミスでは女子大学の全国平均(20%)の倍である40%の学生が、科学技術・工学・数学系を専攻する。2024年9月、スミスの「カーンリベラルアーツ研究所」が、「生成AIとライティング」をテーマとした短期プロジェクトを実施した。

## 6. おわりに

アメリカのリベラルアーツ・カレッジのトップグループは、予算を支える年次収入の43%から55%をエンダウメントからの収入による構造を確立しつつある。財務面の安定性は向上し、リベラルアーツ教育の伝統を維持発展させつつ、新しいAI時代に対応しようと試みている。

2022年11月に「Open AI」が「Chat GPT」という生成AIツールを発表し、同様の製品がMicrosoft Office、Google Docs等でも開発された。今回の事例5大学では、2024年以降に様々な新しい動きが見られた。①AI時代にふさわしい教授陣のニーズの調査に着手 ②「生成AIとライティング」をテーマとした短期プロジェクトの実施 ③コンピューター・サイエンス学科の中にAI専攻を設置 ④キャリアオフィスが、生成AIに関連するスキル向上の機会を提供等の実例が見られた。

日本の大学においても、学内外のAIに強い組織と経営管理セクションが連携し、AIと教育に新しい地平を切り開くことが期待される。

## 【参考文献】

Breneman, D. W. (1994). *Liberal Arts Colleges Thriving, Surviving, or Endangered*. Washington D.C.: The Brookings Institution.

Chronicle of higher education 2021~2024

NACUBO, NACUBO Endowment Study 2001~2024

Amherst College, Statement of Activities Year Ended June 30, 2024

Pomona College, Statement of Activities Year Ended June 30, 2024

Smith College, Consolidated Statement of Activities Year ended June 30, 2024

Wellesley College, Statement of Activities Year Ended June 30, 2024

Williams College, Consolidated Statement of Activities Year ended June 30, 2024

事例各大学ホームページ 2025年2月1日~3月9日アクセス。

絹川正吉 (2005) 「リベラルアーツ教育と学士学位プログラム」日本高等教育学会編『高等教育研究』第8集、玉川大学出版部、7-27頁。

長野公則 (2019) 『アメリカの大学の豊かさと強さのメカニズム：基本財産（エンダウメント）の歴史、運用と教育へのインパクト』東信堂

長野公則 (2020) 「ディスカバリー・ラーニング（発見学修）—UCバークレー学士課程教育の試みを中心に—」日本国際教養学会『JAILA JOURNAL』第6号、46-57頁

福留東土 (2010) 「1980年代以降の米国における学士課程カリキュラムを巡る議論」『大学論集』第42集、広島大学高等教育開発センター、39-52頁。

山田礼子 (2024) 「21世紀型リベラルアーツと大学・社会の対話」大学基準協会監修 東信堂